

## 審査結果報告書

平成 29 年 8 月 31 日

主 査 氏 名 石井正浩



副 査 氏 名 岡本浩嗣



副 査 氏 名 恩田 貴志



副 査 氏 名 釘村 淳



1. 申請者氏名 : 金井 雄二

2. 論文テーマ : Intracranial hemorrhage in full-term infants following vaginal delivery in a Japanese Perinatal Center  
(日本の周産期センターにおける経膈分娩後の満期産児の頭蓋内出血)

3. 論文審査結果 :

満期産児の新生児頭蓋内出血 (ICH) は、早産児 ICH と比較し頻度が低いことが知られている。満期産児では呼吸遂娩術 (V/E) や鉗子遂娩術などの器械分娩による分娩時外傷や周産期低酸素症と密接に関連していることが示唆されている。満期産児には硬膜下出血やくも膜下出血が多い。日本の周産期センターにおいて、分娩方法の違い (硬膜外無痛法の有無、器械分娩 (V/E/鉗子遂娩術)) での満期経膈分娩となった新生児の ICH の特徴についてあきらかにした。結果、母体の硬膜外無痛法は V/E や鉗子遂娩術 0 例 0.00%、自然分娩 3 例 0.07%) で認められた。初発症状は無呼吸発作、哺乳不良、多呼吸、痙攣であり、痙攣を発症した 2 症例 (V/E 1 例、自然分娩 1 例) は 2 次的な水頭症となり、1 例は保存的に回復したが、1 例は脳室-腹膜シャントが必要となった。8 例が新生児 ICH となったがそのうち 7 例は経過観察のみで良好な転帰をとっていた。満期産児の新生児 ICH の発症は一定の頻度で発症する。本研究は将来の臨床上也極めて有用な情報であり学位論文としてふさわしい。また、発表も適切で質疑応答も適切であった。